

藤岡啓介の翻訳玉手箱 第3篇
公開講座 プロになるぞ！！ 第5回
コメント一覧

エッセー

“Books v. Cigarettes”George Orwellで、10月6号に掲載の予定です。

【この提案を真剣に考える】

推薦しないばかりも、その旨お伝えします。手をつけている作品がありますか？ 新刊の著作権フリー本だけが市場ではありませんよ。編集部宛てに「自己紹介」と翻訳する作者(作品)を教えてください。手順を案内します。

後の出来事の光を頼りに

訳文初読でここが変だと思わなければ。

人は誰でも本質的に浅はかな人間の言葉だとすぐに断言するように、
文章の筋があやしいぞ。

十分にみなしていた。

何としても文意不明だな。

車

自動車のこと？コリンズは十九世紀の人なのに！

着いてから起こる運命になっている不思議な恐ろしい事件
読み返しても変だな。

そのうちの一人が言いました。

ここも駄目だな。そろそろ読む気がしなくなるぞ！

品種改良

すごいな、本当かな？

十ヤードの道のり

こりやおかしい。

はっきりさせました

こう書くと、「決着をつける」とい意味になる。

運任せに訊ねてみる

苦しいな。嫌だな！

読者諸氏もすぐに同じ思いを抱くだろう

ここは挿入句だな。こう書くと、主文のように思えてしまう。

ということも忘れて

原文にない括弧で括る工夫がよかった。「忘れる」ではなく「考えずに」と素直に訳してよかったな。

は

ここは「は」ではなく「が」だったな。日本語は助詞ひとつで読みが変わってきますよ。

話しかけてきた

小説家だったらこんな書き方はしない。

十メートルも

要再考、というところだな。具体的な距離がひつような？ それにアメリカはメートル法でないし、おかしいな。

決めて

「と、勝手に決めてしまったが.....」という発想のはず。

偶然にも関心の高い話題を言い当てたのは一目瞭然だった

たしかにヴィクトリア朝の作家たちの英語はものものしいけど、ぼくらが坪内逍遙の初期作品を読むのと同じ、この文だけで漢字が13字も入っている。漢字含有率50%か！！ こういうところを書き変える練習をしなければ。

言い換えます

旧知の教育者で歴史学者のDennis Weidnerさんに教えてもらいました。彼は世界的な大データベースHBC(History of Boy's Clothing)を編纂しています。

文章

Charles Dickens "Selected Journalism 1850-1870) Penguin Classics, 1997

アンブローズ

姓名ですが、めったに出ないフルネームで読者を悩ますことはないでしょう。

Mr. Lefrank

■講座の第1回で、悩ましい固有名詞の表記として書いておいたのですが、WEB上で「レフランク」のまま修正されていなかったのを改めて、Lefrancは「レフランク」ではなく、「ルフランク」ですね。世界史に出てくる「フランク人、フランク王国」のFrankにフランス語の定冠詞leがついた名前です。有名なピカレスク・ノベル(悪漢小説)『ジル・ブラス物語』を書いたLesageを「ルサーージュ」と表記しますね(「賢人」という意味で、本名です)。それからあの快盗ルパンの生みの親Lebranc(ルブラン)もありますね。『固有名詞英語発音辞典』(三省堂)に当たってみました。残念ながらLefrancは出ていません。

男前

この言葉、古いですね、でも最近ぼくが気に入っているお豆腐、「男前」っていうですよ。

【日本語の辞書】

日本語辞書、国語辞書、いずれの表記でもいいのですが、常用している辞書は？あるいは翻訳で日本語の辞書を使ったことがないかな？